

## 豊重先生・島津学区新コミ協議会・久美浜二区振興会への質問および回答

【豊重先生】

①シナリオのないドラマをどうやって思い描いているのか、ヒントをいただきたい。

A. 町内会の人口分布図をみて、専門部長（青少年育成部長・高齢者のわくわくクラブ部長・婦人壮年部長・文化部長・環境部長・事業部長）と、正副町内会長・会計・監事2人の執行部が中心となり検討しています。事業部計画、それに伴う予算案などは専門部会が提案します。勿論、私の企画案も発信して事業がスタートすることもあります（私の提案におんぶに抱っこがおおいですけどね）。みんなの出番を優先して考えています。

②住民全員が部に所属しているのか。

A. 全員専門部に所属しています。

③計画立案、事業推進の役割分担や調整などにおいて、各部の運営と豊重先生のかかわりはどのようになっているのか。

A. 専門部を正副部長・会計係・監事2人で構成しており、基本的には事業推進も会計も専門部に任せています。アイデア出しの手伝いや助言をする形で専門部にはかかわっています。

④後継者になる人は、仕事をしながら担われているのか。（仕事を引退した人なのか）

A. 後継者は既に決まっています。来年度、会社員を定年退職し、その後2年程でバトンタッチをする予定です。

⑤女性の参加の現状を教えてください。

A. 女性参加がやねだんの昔からの伝統文化です。

⑥決議は総会で行っているのか。

A. 決議は当然規約に沿って総会です

⑦自治体とのかかわりについて教えてください。

A. 講演や視察の受け入れ、町内会へのアドバイスという形でかかわっています。

⑧稼ぐ部を株式会社のような形態にはしないのか。どうして今のかたちを選んだのか。

A. 地域創生はあくまでも国づくり、人づくり。永遠のテーマとして、青少年の育成、生きた高齢者福祉、町内会費依存よりボランティア活動でのコミュニティビジネスなどを基本としています。今後もみんなと一緒に汗を流した結果が自主財源確保・還元につながるということがやねだんの最高理念でいきたいと思います。

⑨コロナ化の時は、活動に支障はなかったか。

A. 交流会など全て中止となりました。我慢の5年間でした。

### 【島津学区新コミ協議会】

#### ①地域版ふるさと納税のプロジェクトを選んだ理由を教えてください。

A. 地域版ふるさと納税を選んだ理由ですが、京丹後市全体ではなく特定の地域の活動に対して、賛同して応援していただく仕組みが良いと思ったのが理由です。ただし、ホームページを見て寄附をしていただけるパターンは皆無で、自治会役員が個々の知り合いに事業内容を説明したうえで寄附を募るとい地道な営業活動が必要となっています。

#### ②実際は納税者が少ない中、役員の負担は大きくなっているようだが、役員の受け止め方はどうか。

A. 役員の受け止め方ですが、自分の営業活動により自治会の活動に対する寄附がいただけるので、やりがいがあります。ただし、自治会業務もある中、次から次に営業できているわけではありませんし、特に企業版ふるさと納税には難しさを感じます。

### 【久美浜二区振興会】

#### ①地域版ふるさと納税のプロジェクトを選んだ理由を教えてください。

A. 二区という地域に本納税をしていただくことで、地域そのものや振興会で取り組んでいこうとしていることについて理解や関心を高めてもらう一つのきっかけにしていきたいです。納税し、関心を高めてもらうことで、移住につながることや交流人口・関係人口の出現にも期待します。結果として財源確保の増額になり、活動・事業の幅を広げることができると思います。

#### ②実際は納税者が少ない中、役員の負担は大きくなっているようだが、役員の受け止め方はどうか。

A. 焦らないことを共有すること（過度に何人に納税してもらったとか、何人の人に声掛けをしなければならぬという雰囲気にならないこと）。制度そのものの理解が難しかったり、SNSを活用した広報が広める方（役員）も情報を受ける方にも即理解にはつながらなかつたりという実態もあります。まず、理解の深い人や操作が得意な人を見つけ、話し込み広げてもらうことを重視しています。役員だけでは広がりにくいならば、役員は広げてもらえそうな人を見つけることを優先しています。

#### ③フリーマーケットの開催経験はあるものの、物品が集まらず断念に至った。久美浜二区の「らく市・らく座」では、引き出物等の品物が集まるのか。

A. 時期によって増減があり、コンスタントには集まりにくいですが、「婦人センターにもっていけば引き取ってくれる」ということが広まり定着し出すと、定期版広報に状況等を掲載したり、ご協力依頼をその都度掲載していくことで持ち込みが継続しています。家の中や土蔵の中を整理したり解体したりした時等に、引き出物等の生活不用品がまとまって多く持ち込まれます。事務所に来所された方に持ち込み協力の声掛けを、日常会話で何気に伝えることを続けることも意識しています。